第４号様式

助成対象活動報告シート

団体名：藤が丘まちづくり協議会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

■広場活用社会実験の実施

令和 5 年度後半の実施を目指し、部会独自に資料を収集するとともに名古屋市、UR 等から先行事例の紹介を受けて検討を進めていたが、観測場所に予定していた「エフ」の外装の改装工事により予定がずれ込む中、装置作成協力を依頼していた名古屋学芸大学との調整が難しくなり次年度へ繰り越すこととした。

■地区住民ファシリテータの養成

令和 5 年 10 月 20 日、30 日に講師を招いて実施。受講者は延べ 15 名。内 6 名の受講者は今年度活動であるワークショップにファシリテータとして参加した。

■ワークショップの開催

住民と大学生によるワークショップを 2 回、開催（第 1 回は藤が丘内、第 2 回は市内高架下巡り）した。加えて補助的に学生のみの分析会を愛知学院大学名城公園キャンパスで 1 回開催している。

■藤が丘まちづくりニュースの作成

藤が丘地区住民まちづくり意向調査結果を地区住民と共有することを目的に令和 6 年 1 月に第 2 号を発行。グラフを織り交ぜて住民が考える問題点とまちづくりの方向性を示した。

■地区住民まちづくり意向調査報告書の作成

令和 4 年度に一次集計を行った藤が丘地区住民まちづくり意向調査を年齢層と居住形態でクロス集計し結果をまとめた。報告書の完成が令和 6 年 3 月になったため自己資金で作成した。

■その他の活動

施設整備部会を構想策定部会に改組し、4 回開催、協議会メンバーおよび名古屋市、UR 等と協議を行い、来年度に向けた構想策定の方向性を確認、特に高架下利用については具体案の策定を開始した。

◆第 1 回ワークショップ

フィールドウォーク

ディスカッション

学生による分析会

◆第 2 回ワークショップ

藤が丘高架下フィールドウォーク

咲く街高架下フィールドウォーク

発表とディスカッション

※ この様式は公開されます。

2 活動の成果および目標達成度合い

■ファシリテータ育成：地区住民の応募を受けてファシリテータの養成が進み、学生と住民が参加したワークショップでは住民ファシリテータが運営の役割を担うことができ、今後のまちづくり活動にかかるワークショップを地区内人材で運営できる体制が整った。
■ワークショップ：住民、学生連携によるワークショップが開催でき、学生からも活発に意見が出された。特に藤が丘のシンボルがない、シンボルづくりが必要等、これまで住民や協議会にはなかった視点からの発言があり、注目を集めた。住民にとっても藤が丘の実情を学生に伝えようとする中で藤が丘の実態を再考・深化させる効果が認められた。
■藤が丘まちづくりニュース：住民まちづくり意向調査結果の報告にテーマを絞ったことにより、明確な情報発信ができた。住民の皆さんにとっても、藤が丘地区住民の考えていることが文章化・数値化されて示されたことで、まちづくりに関する認識が深まると期待している。
■藤が丘住民まちづくり意向調査結果の分析（報告書の作成）
昨年度の一次集計に加えて年齢層と居住形態でクロス集計を行った。一次集計結果を再検討するなかで、藤が丘と日進長久手地区が地元圏、名古屋駅と栄を中心圏としてとらえることができ、中心圏への流出もあるものの、地元圏として一定の求心性があるとの分析ができた。クロス集計については、居住形態別に特に差は認められず、年齢層では項目によって一定の差が認められるところから、住民の年齢層を想定した検討が必要である可能性を得ることができた。
■リニモス広場活用社会実験：年度後半に実施を予定しており、構想策定部会ではＵＲ等からも資料提供を受けたが、年度後半に観測地点に想定していた「エフ」が外構改修に入ってしまい、装置作成協力を依頼していた名古屋学芸大学との調整が難しくなり次年度へ繰り越すこととした。
■その他の活動：施設検討部会を構想策定部会に改組したが、ＵＲ，名古屋市等からも資料提供があり、東京から識者（善鷹蒔幸子氏）を招くなど、活発な活動ができた。また駅周辺地権者によるランドーナー会議も開催した。

3 活動により見えた課題

地元ファシリテータの有効性を確認できた。来年度のワークショップにも積極的に参加していただくが、同時に継続的にスキルアップを図る必要がある。
ワークショップから異なった層の人々の協議の重要性が浮き彫りになったため来年度は藤が丘にかかる様々な利害関係者との協議を一層進め、構想策定に反映させることが課題。地区固有の課題として地下鉄高架下利用があり、協議会においても短・中期構想の中心になっているところから、公共空間をどのように使うのか、使えるのかについては議論だけでなく今年度、実施できなかった社会実験の実施を踏まえた活用方法の具体策づくりが課題。

4 今後の活動等の展望

構想の協議会案の基本線が明確になりつつあり、内容が住民意向と乖離していないこが明らかになった。今後は構想策定に向けて実験的活動を行うとともに、高架下活用、長期構想ともに住民各層（商業者、住民各層、地権者等）との懇談による構想の確立を進める。構想策定活動と同時に、策定後の構想実現に向けて持続可能なエリアマネジメント組織の結成と運営の在り方の検討を行う。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。
※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。